

2023 年度

国際政治経済学部

総合型選抜 I 期(英語資格型)

【小論文】

60 分 100 点

次の文章を読んで、以下の問いに答えよ。

世界の食料危機は深刻さを増し、途上国が大きな打撃を被っている。国連と欧米が主導し、ウクライナから穀物を安全に輸送するルートの確保と途上国支援を急ぐ必要がある。

ロシア軍は黒海を封鎖してウクライナからの穀物輸出を妨害しているうえに、今月下旬には沿岸部の貯蔵庫をミサイル攻撃した。輸送路だけでなく、穀物そのものを標的とする戦術は言語道断だ。

ロシアとウクライナで、世界の小麦輸出の約3割を占める。両国からの輸出停滞により、5月の小麦価格はロシアのウクライナ侵略前と比べて34%も上昇した。

小麦以外の穀物も軒並み値上がりし、アフリカや中東を中心に、食料の多くを輸入や支援に依存する国が直撃を受けている。

南スーダンでは人口の半数以上にあたる774万人の食料が不足し、8万7000人が飢餓状態で命の危険に瀕しているという。

イランや、ヨルダン川西岸のパレスチナ自治区では、食料高騰に抗議する大規模デモが起きた。食料危機の深刻化は、社会の混乱や政情不安を招く恐れがある。

ロシアのプーチン大統領は、「欧米の対露制裁が食料危機を悪化させた」とする筋違いの主張を続け、アフリカ連合(AU)の議長国セネガルのマッキ・サル大統領にも理解を求めた。

途上国側の危機感を逆手にとって、批判の矛先をロシアではなく、欧米の先進国に向けさせようという卑劣な戦術だ。「ロシアはアフリカを人質にとっている」というウクライナのゼレンスキー大統領の指摘は的を射ている。

食料危機を巡り、欧米と途上国が対立する事態に陥れば、プーチン氏の思うつぼだ。事態を打開し、穀物を安定して供給できる体制づくりを急がねばならない。

国連が主導して進めている協議では、ウクライナ南部の港からトルコ側の安全な海域まで、第三国の船団が輸送船を護衛する案が検討されている。ロシアは受け入れるべきだ。

米国は同時に、ウクライナから鉄道で穀物を運び、ポーランドなどの港で船に積み替えて輸送する構想を提案している。海路と比べ、費用や時間はかかるが、倉庫に留め置かれている穀物を生かすことはできるだろう。

インドは小麦の国内供給を優先し、輸出を禁止している。保護主義的な動きには警戒が必要だ。国連には、食料の輸出規制措置の抑制や途上国への支援増加に向けて役割を果たしてもらいたい。

(『読売新聞』2022年6月24日付)

問1 本文の内容を300字以内で要約しなさい。

問2 ロシアのウクライナ侵攻が日本にどのような影響を与えていると思いますか。500字以内で自分の考えを述べなさい。